

# 気候変動と災害リスク軽減に関する コミュニティの認知とニーズの理解: バングラデシュにおける NGO の役割

高橋 史

キーワード: 気候変動への適応, 災害リスク軽減, コミュニティ, NGO, バングラデシュ

## 1. 研究背景

アジアの最貧国の一つであるバングラデシュは自然災害に対して極めて脆弱であり、今後拡大が予想される気候変動の影響はすでに貧困や災害、政治的要因によって苦しむ国民の適応能にさらなる悪影響を及ぼすものと考えられる。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) は気候変動への適応策を温室効果ガス排出削減策と共に重要なリスク削減戦略として位置づけている。したがって、現在、コミュニティレベルで行われている気候関連災害への適応策を理解することにより、外部機関からの適応策に関わる適切な支援を模索することが可能となる。

## 2. 本研究の目的

本研究では以下の3点を明らかにすることを目的とした。

- I. 気候関連災害と気候変動に関するコミュニティの認知、およびバングラデシュにおける自発的な気候変動への適応策とその効果 (リスク評価)
- II. 気候関連災害リスク削減に関するコミュニティのニーズ (ニーズ評価)
- III. 災害リスク削減と気候変動への適応策における促進役としてのバングラデシュ政府と NGO の組織分析 (組織評価)

以上の目的に基づき、バングラデシュ国内の沿岸部を含む異なる3つの洪水卓越地域において質問紙表を基にした現地調査を行った。

## 3. 結果と考察

- ・コミュニティの大部分は自身の脆弱性の増加と災害の増加を認知している。
- ・気候関連災害に対する自発的な適応策はすでに行われているが、気候変動に対応する具体的な適応策は進んでいない。
- ・NGO は災害リスク軽減において最もコミュニティから信頼される外部機関であり、特にマイクロクレジットプログラムに対するコミュニティの信頼は高い。
- ・バングラデシュにおける NGO の持続性は気候変動のリスクによって確保されうる。

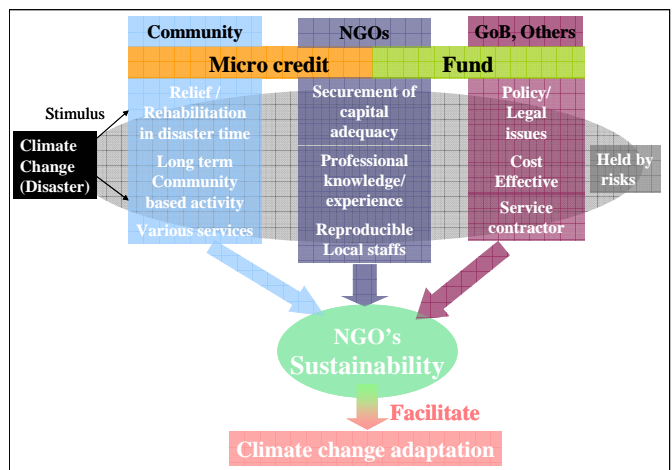


図-1 バングラデシュにおける NGO の持続性

以上より、本研究においてバングラデシュにおける NGO の持続性と気候変動への適応のファシリテーション能力が証明された。